

団体名	みんなのさいわい
事業名	NPO・地域団体へのプロジェクト型中間支援

<p><b>目的・背景</b></p> <p>地域課題の解決を目指して活動している NPO・地域団体の基盤強化をプロジェクト型で支援することにより、社会貢献活動の広がりを促進していきます。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>① 支援先は、課題解決のための成果物を入手できます。</p> <p>② 支援先は、プロボノチームとのやりとりの中で多くの気づきが得られます。</p> <p>③ 支援先のメンバーや支援先のステークホルダーへのヒアリングを丁寧に行うことにより、支援先の活動がやりやすくなります。</p> <p>④ プロボノワーカーは、自分の能力を活かしつつ、新たな経験、より広い知識、人脈などを得ることができます。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>参加した支援先およびプロボノワーカーの平均満足度：                  目標：平均 8 点（10 点満点）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. NPO シマフクロウ・エイド: 7.7 点</li> <li>2. NPO Fine : 8.2 点</li> <li>3. みんなのファンドレイジング部: 9.8 点</li> <li>4. NPO 銀座ミツバチプロジェクト: 8.3 点</li> <li>5. NPO ReMind 活動がまだ完了していない。</li> </ol> <p>実績：平均 8.5 点。（10 点満点）</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>課題は、川崎市内の支援先の発掘です。</p> <p>今後の展望：2020 年は、みんなのさいわいにとって新しいことがいくつか実施できました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ファンドレイジング支援が本格的に稼働して、3プロジェクトを実施した。</li> <li>② NPO の資金調達力を自己判断できる「アセスメントフォーム」をプロボノチームの協力で作成した。</li> <li>③ 第一回プロボノ・ファンドレイジングセミナーを実施して、川崎市内の行政・中間支援・中小企業診断士・支援先候補との繋がりができました。</li> </ol> <p>上記の①から③を活用して、川崎市内の支援先の発掘を進めたいと思います。</p>

		
<p>NPO FINE とチームメンバー</p>	<p>NPO シマフクロウ・エイドとチームメンバー</p>	<p>プロボノファンドレイジングセミナー講師の多賀氏</p>

団体名	柿生おもちゃ病院
事業名	おもちゃ修理

目的・背景	事業の効果
<p>ボランティア活動としてお子様の遊びや知育、お年寄りの操作や音による介護動作の手助け、共遊玩具で目、耳等体の不自由な方の楽しみの手助け、そして会話と直った時の笑顔と喜びまた、修理、再生によるリサイクルで資源の消耗を減らし、有効利用する、思い出と物と、こどもの夢を大切にすることを育むことで地域や社会に貢献出来るものと思います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、おもちゃドクターと持ってきた患者さん(依頼者さん)とのコミュニケーションが 1000 時間以上で昨年度を上回る笑顔と喜びの活動が出来ました</li> <li>2、368 個のおもちゃを修理お子様、お母さん、お父さん、お年寄りの皆さんの夢を大切にすることを育むこと生かす事が出来ました</li> <li>3、新たに二子おもちゃ病院を開設できました、</li> </ol>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ol style="list-style-type: none"> <li>1、数度にわたりタウンニュースに掲載して頂き又、二子おもちゃ病院の新規開設で修理台数370台でした with コロナで開催回数が予定の 61 回の半分 30 回の減少にもかかわらず市内各地から依頼多くが来て修理台数が昨年と同等の数値となりました</li> <li>2、助成金での備品の購入(オシロスコープ)や部品の購入で早めの修理が出来るようになり修理完成率が94%と今年度目標の95%にあと 1%とほぼ目標が達成できたと思います</li> <li>3、おもちゃドクターは入退が激しく2名加入 3名脱退でした、部品の修理場所への設置も二子と宮崎が確保できるようになりました</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、おもちゃドクターの高齢化やインターンのドクターを近代化(今年度は自作の RF 電波検知器)ロボットの製作で修理技術向上充実させドクター数を確保する必要があります</li> <li>2、コロナ禍開催で場所毎に修理部品などの持ち運びを減らし荷物の軽量化を図る必要があります</li> <li>3、市内、町内会等のイベント開催の参加など小中学生向けに工作教室のおもちゃ工作の面白さを試作により教室開催への足掛かりを計画します</li> </ol>

写真1 水晶発振回路を製作、水晶発振子の周波数を測定、発振子故障の有無と確認切り分けを行った

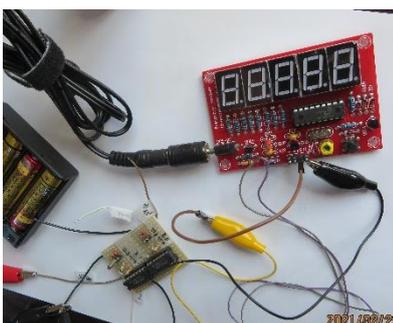


写真2 感染症対策の実施、手指の消毒、パーティションによる接触防止、窓開け換気、マスクの着用、参加者の連絡方法の記録を行う



写真3 ワンダフルドリームパソコンのマウスへのケーブルを断線チェッカーを製作し、ケーブル断線箇所を特定、ケーブルを交換修理した



団体名	NPO法人多摩川エコミュージアム
事業名	親子で多摩川の流れと自然を感じ取るラフティングボート体験会の実施(5月～9月)

目的・背景	事業の効果
<p>事業名:ラフティングボート体験乗船会                      ～夏の多摩川で自然を楽しもう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業予算:100万(かわさき市民公益活動助成金 80万)</li> </ul> <p>内容:親子でラフティングボートで中州にわたり、河童の川流れ、ボートのパドル操作、ガサガサ(魚とり)、野鳥や植物、石の観察など夏の多摩川を楽しむ</p> <p>実施時期: 5月から9月迄毎月第2土曜日                      (8月のみ第1土曜日) 計5回の開催</p> <p>このコロナ禍で事業規模の縮小(5回→2回)、ボート乗船時間の短縮(30分→3分)結果としてコースの大幅変更</p> <p>その分、中州での上陸しての親子で自然と遊ぶ時間を延長する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このコロナ禍でも親子はアウトドアのイベント参加を強く望んでいる                      →開催案内毎にすぐ定員一杯、雨天で延期しても参加意識高い</li> <li>・ラフティングボート体験乗船だけでなく、多摩川との自然との触れ合いを親子で楽しんでいる</li> <li>・参加者に加えてこのコロナ禍に加えて台風による荒天による中止・延期にめげずスタッフもこのイベントを支え成功させたい意欲が見られた。</li> <li>・本イベントは結果的にその規模は5回から1回しかできなかったがその過程も含めてどうすれば成功できるかという実施要領・ポイントはつかめた。本年を初年度にして3か年計画にチャレンジしたい。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>・変更後の計画 年2回開催 →実績 1回(予定外にさらに1回企画したが謡風影響下の雨天で中止)</li> <li>・参加親 10組、ボート乗船時間 1-2分、自然楽しもうを中心                      cf. 5月～9月毎月1回実施、参加親子 20組 ボート乗船時間重視型 自然楽しもうは副</li> <li>・イベント内容 コロナ禍で回数・規模大幅縮小を迫られた</li> <li>・コロナ禍だけでなく台風等の大雨・流れの要因での中止を迫られた</li> <li>・漕ぎ手確保という点では多摩エコとして年齢・体力的にも弱点である面が連携団体の強力なサポートで助かった。</li> <li>・公益金事業で謝金に加えてパドル、水中カメラ、非接触体温計等が購入できた</li> <li>・3か年続けられるポイントになるボート漕ぎ手の育成に見通し立った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候に左右されにくいコース会場選び&amp;設計</li> </ul> <p>コロナ対策以外にこの事業は屋外かつ、多摩川という自然が相手だけに天気にも開催が左右される。かつラフティングボート体験は夏場であり、台風の影響を受けやすい。天候をいかにかもあるが、少々の荒れ模様でも開催可能なコースの選択・設計もポイント。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間での本事業の開催継続性の確立見通しを立てる</li> <li>参加者に対してスタッフが多く必要な事業だけに、スタッフの人件費が本事業の8割を占める体質からの脱却が必要</li> <li>事業の魅力をアップグレードして参加費を上げる検討と合わせて</li> <li>・自分も楽しいから参加のボート漕ぎ手のボランティア数増を図る</li> </ul>



団体名	くれよん
事業名	坂上広場あそび基地

<p><b>目的・背景</b></p> <p>公園は、雨天や酷暑厳冬では過ごしにくく、子ども文化センターは、中学校区に1つであり、子文から遠方の地域からは利用しにくい。また、わくわくは、利用に際し事前に申請が必要であり、児童が自由に遊べる場所ではない。児童の自宅で友人を招いて遊ぶことについては、保護者不在時は原則不可という学校規則があり、久末地区では保護者が仕事などで夕方不在の家庭も多いため、自宅も友人と遊べるスペースではない。つまり、児童にとって、仲間と自由に遊べるスペースはかなり限られているという現状がある。そこで、本事業により、児童が自由に遊べる空間と時間を提供していきたいと考える。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもたち同士の交流が深まり、また大人との関わりの中で安心を得る。</li> <li>2. 地域交流室の存在が周知され、地域の交流場所としての利用が促進される。</li> <li>3. くれよんスタッフだけでなく、地域の方も巻き込んでいくことで、顔が見える関係が広がる。</li> <li>4. 高齢者施設の地域交流室を子どもの居場所としての利用するという実績を築くことで、他地域で同様の活動が広がる可能性がある。</li> </ol>
<p><b>実施結果</b></p> <p>2020 年度は、コロナ禍での緊急事態宣言を受けて、会場としている高齢者施設の閉鎖が続き、トータルで5 回のみの実施となった。開催できた 5 回も広報が届かず、参加人数はのべ11 人にとどまった。</p> <p>しかし 5 回目に参加の小学生からは、再開を喜び、学校の悩みごとなどを話す場の貴重さを伝える声が聞かれた。</p> <p>閉塞感の高い期間だからこそ開催する意義を感じた。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>感染リスクへの配慮が必要である状況が続く可能性は大きいですが、形態を変えて継続したいと考える。</p> <p>週1回を月1回に変更し、十分な感染対策をとったうえで、子どもたちの主体性を軸に活動する時間として再設計したいと考える。</p>



再開当日に来てくれた子どもたち



あみものイベント



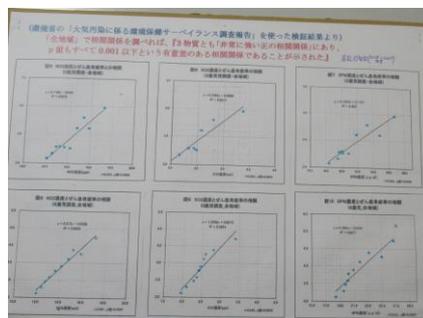
誰も来ない日も多かった

団体名	NPO 法人 川崎フューチャー・ネットワーク
事業名	川崎市公害の証言を記録する

<p><b>目的・背景</b></p> <p><b>事業の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市の大気汚染公害の当事者の体験や思いを記録する。</li> </ul> <p><b>背景</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市には、大気汚染公害を伝える資料館等がなく、集約的に当時の記録を取っているものがない。</li> <li>現在、当時の公害問題に関わってきた方々が高齢化し、このままでは貴重な学びが失われてしまう。他都市の例を手本に、記録を取っておく必要性を強く感じた。</li> </ul>	<p><b>事業の効果</b></p> <p><b>実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当事者の方々とお会いして証言を映像と音声で記録。</li> </ul> <p><b>成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市の公害について、対外的に知らせたり、次世代に伝えていくための基礎資料ができる。</li> </ul>
<p><b>実施結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスにより、予定していた方々の証言を記録させていただくタイミングが遅れ、記録数が少なくなりました。</li> <li>ただ、いただいた証言は、これまでに、どこでも語られてこなかった貴重な証言が多く、少数ながら、あらためて、この事業の必要性を強く感じるものとなった。</li> </ul>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>予定していた方々の聞き取りが十分にできなかったが、ぜひ、引き続き、記録を行っていきたい。まずは、今のうちに(証言者が存命のうちに)、できるだけ多くの方の記録を取り続けることが重要。</li> <li>将来的には、映像記録を広く視聴できるものにしていくためのネットワークを探すことも必要になると感じる。</li> </ul>



聞き取りの様子(1)



活動を伝える資料



聞き取りの様子(2)

団体名	ともしび会
事業名	養護施設慰問に関する事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>社会では貧困や家庭内暴力などから親と一緒に暮らせない子供たちが増えている。そのような子供たちが輝かしい未来に向けて、正しく、強く、明るく育っていく環境を整えていく事が、重要な課題と考えている。</p> <p>ともしび会は動物園への遠足、ハイキング、スポーツイベント、作品作成など、様々なイベントを通して、家族のふれあいに似た体験をする事で、子供たちの健全な成長を手助けすると共に、学園から巣立った子供たちが社会に出て、様々な仕事をしていく事で、将来の川崎の発展に貢献していく事が期待できる。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>親と一緒に暮らせない子供たちに家族とのふれあいに似た体験をしてもらう事で、心身の充実をもたらす。</p> <p>幼児から小学校、中学校、高校と子供たちの成長に合わせたイベントを行う事で、健全な成長の手助けとなる。毎回のイベントで子供たちから、さまざまなお礼状をいただいている。イベントを喜んでもらっている様子がほほえましく感じられ、子供たちの良い思い出になっている事が感じられる。</p> <p>卒園生は社会に出て仕事に就くだけでなく、様々な活動を行い社会に貢献することが期待できる。最近では大学を目指す子供も増えており、さらなる貢献も期待できる。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>芋掘りに関しては屋外であり、ともしび会メンバー以外の人の接触も無いため、学園から実施の希望があり実施できた。</p> <p>実施に当たっては、除菌スプレーやマスク着用、ともしび会メンバーはフェイスシールド着用などウィルス対策を実施した。普段あまり外にでられない状況の中、芋掘りや焼き芋など子供たちには楽しいひと時を提供できた。</p> <p>お礼状もいただき、”でっかいもをほれてたのしかった””やきいもがおいしかった””またいもほりがしたいです”などの声をいただいた。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今年度はコロナウィルスの影響があり、学園側からは当面のイベントを見合わせるとの見解をいただいた。今後のイベント再開については、コロナ終息の目処が立った時点で学園側と調整する事になる。</p> <p>実施イベントは従来イベントを基本とするが、学園側からの希望イベントの自転車の練習や魚釣りも併せて検討していく。会を継続に当たって、現在のように参加者全員から都度、会費徴収という運営方法から見直しを進めるが、昨年度は、コロナの影響で検討は進められなかった。今後は、現在参加のないメンバーからの年会費徴収やクラウドファンディングを検討し単年度赤字解消を目指す。</p>



いっぱいお芋が掘れたよ



コロナ対策もバッチリ



焼き芋もおいしくできたよ

団体名	すこやか卓球
事業名	子どもから高齢者向けのすこやか卓球教室の開催

<p>目的・背景</p> <p>○経験豊富な指導者の指導により、部員相互の親睦をはかり、卓球を通じて、団体生活での規律・協調性・礼儀等を養うとともに、基礎体力の向上と卓球技術の向上を目指し、併せてスポーツ振興に寄与することを目的とする。</p> <p>○地域の子どもから高齢者まで気軽に参加できる親しみやすい教室を存続する。</p>	<p>事業の効果</p> <p>○高齢者は子ども達とふれあうことで、生きがいを見つけられた。また「教えてもらってよかった」「楽しかった」の声が聞かれた。</p> <p>○子ども達は地域の高齢者達に、お菓子をもらったり、見守られて安心して運動して、すこやかな成長が見てとれた。</p> <p>○子ども達は、体が柔軟なうちに、神奈川代表の経験のある良いコーチに指導を受けられ、期待できる将来に向けて、基礎ができた。</p> <p>○子ども達の親も、助成金のおかげで、かなり安価で、かつ良いコーチに恵まれ、大変喜んだ。</p>
<p>実施結果</p> <p>○コロナ禍の為、6～3月で43回398名が参加。外部指導日は2月21日、3月21日は20名以上の参加になった。高齢者は子ども達とふれあうことで、楽しく1年間、ケガも無く継続できた。</p> <p>○子ども達は地域の高齢者達に見守られて運動して、身長がすごく伸びてすこやかな成長が見て取れた。</p> <p>○壮年の部は、この1年間、徐々に力を付け、試合でも納得できるパワーを身に着けた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>○運営スタッフ陣が、自分の子どもの事で運営のみに集中する事が困難になりつつある。今まで以上に、分業して、結束、団結、協力していく事が課題である。</p> <p>○コーチが、広域から人が集まる卓球場の経営者で、そこに集まる高齢者の団体と打ち解けてすこやか卓球の活動を徐々に広げていきたい。</p> <p>○子どもから高齢者の卓球大会の支援をすることで、活動の幅を広げていきたい。</p>



基礎練習の指導を受けています



試合形式での指導を受けています

団体名	宮前の歴史を学ぶ会
事業名	宮前区内の歴史・文化等を掘り起こし、「郷土誌」発行

<p><b>目的・背景</b></p> <p>機関紙(郷土誌)を発行し、愛読していただける人たちをとおして、これからの未来に生きる子供たちに何を伝えていくべきか学んでいきたい。</p> <p>背景としてはそれぞれの地域には人が長年住んでいれば良かれ江悪かけ人間の葛藤の中で生活が営まれている。そしてそこには歴史が刻まれていると考えられる。</p> <p>そこに刻まれ生きた人々の生活を掘り起こしていくことは、時の人間の継承者として大切な行為だと思う。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>講座等開催しながら、機関紙(郷土誌)を配布していくことから地域の出来事を改めて認識してくれる方が多いのに驚きです。教育関係者からは学校での研修の場で話を聞かせてほしいという声が聞こえてきた。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 仲間がふえてきた。</li> <li>2, コラボの要請に声がかかってきた。</li> <li>3, 自分たちが住んでいる人とのつながりを求めている人がふえてきた。</li> </ol>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 教育関係者からの声を具体化して進めていきたい。子ども達との触れ合いを求めている。</li> <li>2, 郷土誌の内容に多様性を導入していきたい。歴史文化に限らない。司会、普通の取材満載の雑誌とは一線ことなる。時代の問題解決型の取材の取り組みを意図していきたい。</li> <li>3, 子供であっても大人であっても、専門家であっても書き手は規制しないでいきたい。</li> </ol>



**「宮前郷土誌」**

創刊は平成23年。現在22号。

私たちの暮らす街にはいろいろな歴史が詰まっています。何も気づかずに、毎日を一生懸命に生きています。

宮前区の多摩丘陵には信じられないほどの遺跡がありました。でも、すでにそれらは皆さんが住む家の下に埋められたまま。時代はすでに「明治」「大正」「昭和」「平成」「令和」なんと早いこと。

団体名	なかはら食のみまもり会
事業名	乳幼児・パパ・ママの食育講座と料理実習体験

<p>目的・背景</p> <p>乳幼児を持つ働く世代は、離乳食のすすめ方など、子育ての悩みや相談を多く抱えている。また、この世代は他の世代に比べ健康課題例えば朝食の欠食率も高く、バランスの良い食事がとられていない傾向がある。その生活スタイル(食習慣)はおのずと子供に継承されていく。そこで、こどもの離乳食のすすめ方とおして、これらの改善を目的に専門家である管理栄養士が講和と調理の工夫の紹介や離乳食の疑問などにこたえ、参加者の交流を盛り込んだ講座を開催することにした。地域の子育て支援の拡がりもはかる。</p>	<p>事業の効果</p> <p>講座は3回開催した。                  受講後のアンケート回答率は75.6%。                  交流タイムを設けたことで、同世代の方々との触れ合いができて安心しました。                  調理体験の代わりに動画で視覚的に実際の作り方をお知らせすることができた。                  個々の離乳食の疑問を交流することで解決でき、不安感を払拭する事ができた。                  地域の子育て情報をお知らせする場にもなった。</p>
<p>実施結果</p> <p>講座受講後のアンケート結果から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子供の食事のすすめ方に役立った。</li> <li>②食事作りが面倒だと感じていたが、調理の工夫やレシピなど、参考になった。</li> <li>③コロナ禍でも交流できて良かった。</li> <li>④地域の情報が得られた、</li> <li>⑤離乳食の相談が具体的にできる場所があった。</li> </ul>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>2020年度はコロナ禍で急遽オンライン食育講座を実施することになった。その結果参加者には気軽に参加できたり、密になる心配がなく自宅で安心して受講できるメリットがあった。しかし、対面での五感による体感が十分得られない、交流が図りにくいなどのデメリットもみられた。よって今後はオンラインでもリアル感が得られるような体験型の参加者と講師が交流できるような講座の企画を考えている。                  習得したオンラインの操作技術をより活用して、最新の健康・食事情報を発信していきたい。                  参加者の人数も15名から20名に増やすことも今後の目標である。</p>



講座当日の様子



配信した動画



ブレイクアウトルームでの様子

団体名	二ヶ領用水クリーンアップ協議会
事業名	二ヶ領用水一斉清掃 2020

<p><b>目的・背景</b></p> <p>二ヶ領用水竣工 400 年行事で二ヶ領用水の一斉清掃を実施したが、その後行われていなかったので二ヶ領用水に関わる団体に呼び掛けて協議会を立ち上げて、二ヶ領用水の一斉清掃を実施して 4 年目である。各団体の協力及び専修大学の課題解決型インターンシップの学生と一丸となり一斉清掃を行ってきたが、今年度はコロナの関係で専大のインターンシップの学生が参加出来ないことから会員団体のみでの参加となった。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>関係団体の協力により相応の成果はあった。今年度はコロナ禍でかつ当日は熱中症アラートの発令もあり、協力団体の不参加もあったが、無事終了した。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>一斉清掃当日は、熱中症アラートが発令される中 6 カ所 6 団体で 105 名の参加があった。今年度は子どもの参加が 2 名と少なかった。                  ゴミの数は、45ℓゴミ換算で 59 袋有った。                  (参加人数内訳)                  多摩区 3 団体・65 名、高津区 1 団体 12 名                  中原区 1 団体 17 名、幸区 1 団体 11 名</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今年度は、コロナの関係で小学生の参加を見合わせたところもあったことから例年に比べて 2 名と少なかった。                  各関係団体の高齢化も進んでおり、早く二ヶ領用水一斉清掃が認知されるように努力してゆきたい。</p>



企業・行政・高校生の参加があった  
(多摩区)



近隣の住民及び学生の参加があった  
(中原区)



町内会での参加です  
(幸区)